

9-5 会話^[1]

語り手：平賀さだも

オヤ キモヤ ネ。^[2]

oya kimoya ne.

ああ、腹立たしい。

クウェイサパハトウルセ^[3]。

ku=wen-sapaha turse.

私の悪い頭が落ちた (=思うように言えない)。

エコン ルスイ クサパハ ネ クス。

e=kor_ rusuy ku=sapaha ne kusu.

あなたが欲しがっている私の頭なのだから^[4]。

(フチ A^[5] : エレクチ トウルセ イネ せば……)

(huci A : e=rekuci turse h_inē せば……)

(フチ A : あなたの喉が落ちたら^[6]……)

クウェンオトピ^o チャイケチャイケ パイケパイケ^[7] コロ

ku=wen-otopi caykecayke paykepayke kor

私の汚い髪はボサボサのバサバサで

イチャッケレ ワ クス クシナシナ、キキタネ、うん。

icakkere wa kusu ku=sinasina, kikitane、うん。

汚いから縛る、どうせなら、うん。

スイ クチャンボ^[8] ネ クニ クラム。

suy ku=campo ne kuni ku=ramu.

また私は坊主にしようと思う。

(フチ A : タン レクチ クコン ルスイ^[9])

(huci A : tan rekuci ku=kor_ rusuy)

(フチ A : この喉 (=あなた (平賀氏) の喉) を私は欲しい)

クチャンポ ネ クニ クラム コロカ。

ku=campo ne kuni ku=ramu korka.

私は坊主にしようと思うけれど。

(フチ A : アイヌパークス)

(huci A : aynupakusu)

(フチ A : うらやましいわ)

(フチ A : エネ イェ プ ウトゥラトゥラ ハウ……)

(huci A : ene ye p uturatura haw...)

(フチ A : このように言うことが次々に (=ぺらぺら話せて) ……)

ウトゥラトゥラ イェ……

uturatura ye...

次々と言う……

(フチ A : ……エイェ ワ オカイ ペ パロホ タ……)

(huci A : ...e=ye wa okay pe paroho ta...)

(フチ A : ……あなたが言っていることは、口に……)

(フチ B : ウカシマンパ?)

(huci B : ukasmanpa?)

(フチ B : あふれる?)

(フチ A : ウカシマンパ ワ イェ ワ オケレ^[10])

(huci A : ukasmanpa wa ye wa okere)

(フチ A : 口からあふれて言い終える (=次から次へとすべて語り尽くせる))

(フチ A : いたわしい。エネ ハウエアン パロホ ヘンパラ アン コロ……)

(huci A : いたわしい。ene hawean paroho hempara an kor...)

(フチ A : 惜しいことだ。このように話す口もいつかは……)

ライ クス。

ray kusu.

死ぬから。

(フチ A : ライ ワ イサム クニ プ エネ パロホ……)

(huci A : ray wa isam kuni p ene paroho…)

(フチ A : 死んでしまうものは、このように口が……)

【注】

- [1] 資料一覧では「語り口の個所」となっているが、このファイルは yukar の続きを rupaye (節をつけずに語る) にしたのではなく、録音現場に同席していた人たちによる会話のようである。
- [2] oya kimoya 「ああ腹立たしい」(『沙流方言辞典』P304)
- [3] sapa turse 「頭が落ちる」とは、ここでは思うように言えないという意味か。
- [4] 以下の会話中にも出てくるが、平賀氏が非常に口が達者であるため、A氏が平賀氏の達者な口が頭ごと欲しいとうらやましがっている。この会話以前にも同様の話が出たことがあったために、ここではそれを指して「あなたのほしがっている私の頭」と言っているようである。
- [5] 数人で会話しているようだが、平賀さだも氏以外の発言者(同席者)についての情報がなく、不明であるため、平賀氏を除く発言者には便宜的にアルファベットで記す。
- [6] sapa turse 「頭が落ちる」と聞いて、平賀氏の頭が落ちてしまうなら、彼女の達者な喉が欲しいと言っている。
- [7] cayayke / payayke の重複形。cayayke は「(とげが) 出ている」(『沙流方言辞典』)、また、他動詞形の cayaya は「～を逆立てる」(『千歳方言辞典』)なので、ここでは髪の毛が逆立っている様子か。
- [8] campoho ne 「坊主頭になる」(浅井タケ口述、村崎恭子編訳、2001『浅井タケの昔話』(草風館) : P60-61)。ここでは、坊主頭というよりも髪の毛をごく短く切るという意味か。
- [9] 平賀氏の発言と重複している。
- [10] 中川裕校訂、大塚一美編訳、1990『キナラブック口伝 アイヌ民話全集1』(北海道出版企画センター)に「アンパロタ ウカシマンパアナイネ 私の口からあふれてあふれて」(P35)とある。paro(ho) ta ukasmampa で「口からあふれる」という言葉を次々に紡ぎ出せることをいう語句。